

■大正5年

四季雜詠

(曲水1-1)

夏蚕眠りて松に來たりし驟雨かな

橋に來て四山明るし百舌鳥の聲

夜長の灯寝つかぬ鶏にとゞきけり

醜草に交じりて風の野菊かな

養魚池のまわりは風ある野菊かな

曲水句帖(水巴選)

(曲水1-2)

千竿に露一連や四山濃し

蔦鉢の露ふれば露の葉にあらは

曲水吟社10月例会 席題「渡り鳥、栗」

松揚げば蒼天渡る鳥迅し

網干すやこの高浪に鳥渡る

句帖

(曲水1-3)

(以下句帖||曲水句帖・吟社||曲水吟社)

庭掃いて僧隠れ去る萩高し

納屋人に夕餉を呼ぶや時雨來し

句帖

(曲水1-4)

冬薔薇の日も頼めなき落葉かな

寒燈吟 五句

(曲水1-5)

六人の句座に火桶やひそとある

日の梢静かに降らす落葉かな

(11月11日)

池の鴛鴦にひそと閉ざせる二階かな

(11月18日)

灸すゑて上総の海に避寒かな

(12月9日)

大風や葱畑の靱高く飛ぶ

(12月23日)

吟社師走例会 席題「師走、水鳥」

雪乱して虚空の風や浮寝鳥

枯芝に水鳥あげて日和かな

句帖

(曲水1-5)

鶏抱いて元朝の戸の主かな

火の見櫓の高きに見ゆる飾りかな

阿蘭陀の船見ゆる縁の手鞠かな

句帖

(曲水1-6)

枝の鳥うららのものを落しけり

春六題 自選

二月

暖国に大雪ありし二月かな

東風

くそ鷹のはたと止りぬ東風の枝

雪解

雪解宿橋危しと喚ばひ來ぬ

雛

雛段に置く亡き人の手鞠かな

鶯